



WAMは福祉と医療の民間活動を応援します

令和4年4月4日
独立行政法人福祉医療機構
経営サポートセンター長 坪井 七夫
経営サポートセンター
リサーチグループリーダー 松本 庄平
担当 高橋・佐藤 (電話) 03-3438-9932
(FAX) 03-3438-0371

社会福祉法人経営動向調査（2022年3月）の結果について

独立行政法人福祉医療機構では、四半期毎（3月、6月、9月、12月）に社会福祉法人経営動向調査を実施しています。今回は2022年3月に実施した本調査の結果についてご報告します。
詳細はホームページ(<https://www.wam.go.jp/hp/sh-survey/>)に掲載しております。

1. 調査の概要

- 対象：特別養護老人ホーム（以下「特養」という。）を運営する社会福祉法人 526 法人
- 調査事項：社会福祉法人および特養の業況、資金繰り、従事者数等に関する現在の状況と3ヶ月後の先行き予測、新型コロナウイルス感染症の影響
- 回答数：407
- 有効回答数：407
- 有効回答率：77.4%
- 実施期間：2022年3月1日（火）～2022年3月22日（火）
- 実施方法：Web上で実施
- 集計方法：DI（景気変動を判断するための指標。各項目の第1選択肢の回答割合から第3選択肢の回答割合を差し引いて算出）に加工・集計して公表

2. 調査の結果

【社会福祉法人の動向】

- 業況判断のDIは、前回調査から13%ポイント低下し、 $\Delta 12$ となり、大幅に悪化した。
- サービス活動収益のDIは、前回調査から24%ポイント低下し、 $\Delta 31$ となった。
- サービス活動収支（黒字・赤字）のDIは、前回調査から15%ポイント低下し、5となった。
- 資金繰りのDIは、前回調査から3%ポイント低下し、 $\Delta 9$ となった。
- 従業員数のDIは、前回調査から4%ポイント低下し、 $\Delta 65$ となった。

【特養の動向】

- サービス活動収益のDIは、前回調査から16%ポイント低下し、 $\Delta 23$ となった。
- サービス活動収支（黒字・赤字）のDIは、前回調査から10%ポイント低下し、5となった。
- 施設全体の従業員数のDIは、前回調査から5%ポイント低下し、 $\Delta 62$ となった。

【新型コロナウイルス感染症の影響】

- 2021年度（2021年4月～2022年3月）において、サービス活動収益（見込み）が減収（1割以上減）となった特養の割合は前年度（2020年度）比で30.2%、前々年度（2019年度）比で28.5%となり、2020年度よりも悪化するとみられる。
- 特養の短期入所収益（見込み）が減収（1割以上減）となった割合は前年度（2020年度）比で39.1%、併設通所収益（見込み）が減収（1割以上減）となった割合は前年度（2020年度）比で52.8%となり、2020年度よりも悪化するとみられる。
- コロナ患者の施設内療養を受入中または受入実績ありと回答した特養の割合は24.8%となった。

以上